

会長

理工学部
自然科学科3年
新井雄大さん

古生物同好会

古生物同好会は、2022年に理工学部自然科学科の学生を中心に発足した新しいサークル。化石や鉱物が秘めるロマンに惹かれたメンバーが集い、日本各地で採集活動を行っています。その成果は世田谷祭でも話題となって、学内での注目を高めています。

理工学部
応用化学科2年
福島 諒さん理工学部
自然科学科2年
井上皓介さん

日本全国、太古を巡って 化石や鉱物を採集

「古生物」とは、地球上でかつて存在していた生物の総称で、恐竜やアンモナイト、三葉虫などが代表的です。古生物同好会では、そうした古生物全般の化石はもちろん、石英や黄鉄鉱といった鉱物を採集するため、日本全国の産地を訪ね歩いています。まずは各メンバーが、それぞれの関心に応じて関連書籍や論文に触れながら、化石・鉱物への理解を深めていきます。あわせて、巡検に役立つ産地情報の収集も行います。そして欲しい化石や鉱物に狙いを定めると、グループLINEで同伴希望者を募り、巡検と呼ばれるフィールドワークへと出掛けます。

会長の新井さんは、都市大を目指した理由の第一が、自然科学科に古生物学研究室があったからだそうで、まさに筋金入りの古生物好き。「入学してすぐ、古生物同好会の“化石やってまーす!”という熱心な勧誘の声に反応しました。活動内容が自分のやりたいこととぴったりで、その場で入会を決めました」と語ります。井上さんも化石好きが高じて「化石の勉強をす

るために自然科学科に入りました」と言い、「SNSで古生物同好会を知り、絶対に入ると決めていました」と話します。一方で福島さんはもともと、化石より鉱物に対する関心が強かったそうです。「幼い頃から家族と一緒に鉱物採集に出かけるうち、その魅力に惹かれました。地学系サークルを探していたところ、古生物同好会なら鉱物の採集にも取り組めると思い入会しました。今では他のメンバーからの影響もあって、化石にも興味湧いてきました」。現在、同好会には33人が所属し、男女比率はおよそ半々。化石や鉱物だけでなく、野生動物の骨を採集するなど、各メンバーの探求心に合わせた活動が行われています。

「化石採集では、地層が露出した場所（露頭）に赴き、ハンマーやタガネを使って探します。鉱物の場合は、鉱山跡のズ

本格装備の
井上さん

月に1～2回のペースで行われる巡検の様子。4～5月には同好会員以外でも参加可能な「新勧巡検」を実施。夏休み期間中には、普段は行けない遠隔地の産地や博物館を巡る夏合宿を行っています。